

オオミズアオ（大水青）という、美しい水色の翅の大きな蛾がいます。5月の連休の頃ひっそりと羽化しますが、幽玄の美ともいえる姿で、ひとめ見ると忘れられません。

そのオオミズアオの幼虫を育てることになったのです。

9月26日、鶴川の近くに住む友人から電話が入りました。自然の好きな仲間で、78才の一人暮らしの女性です。話はこうでした。

マンションのドアを開けたら、オオミズアオがいて、ぼってりしたお腹から雌と判断。もしかしたら卵を産むかもしれないと箱に入れておいたら、その夜、9月2日に65個の卵を産んだそうです。

卵は9月12日に孵化し始め、友人は急いで前の公園の桜の枝を少し採って瓶にさし、幼虫をくっつけました。幼虫たちは次々に孵化し、桜の葉を食べ、友人は餌取りに大忙し。「少し引き受けてくれない？」との依頼なのでした。

オオミズアオを育てた事がないのと、以前からどこでどんな繭を作るのか不思議だったので、私は自転車に乗って友人宅を訪ねました。

すっきりと片付いた部屋の隅に、幼虫たちの場所が作ってありました。大きな箱の中に桜の枝をさした瓶が数本並んでいます。65個の卵

の幼虫は死んだり脱走したりで、現在20数匹になっていました。

私は7匹くっついた枝を持ち帰り、桜と同じバラ科の、庭の杏の葉で育てる事にしました。

オオミズアオは年2回の羽化なので、夏生まれと秋生まれの幼虫がいますが、秋生まれの方が食べる葉は固いし、蛹で越冬だし、大変そうです。

繭は地表近くに簡単に作ると、図鑑にあるのですが、見た事がありません。繭作りについて友人と私の推理は違っていて、友人は枯葉と共に地表に落ちて繭を作るというもの、私は時期がきたら幹を下りて地表で作るという推理、でももしかしたらどちらも違うのかもしれないのです。

10月23日、人差し指位になった終令幼虫は緑色の身体をイナバウワーのようにそらせて、固い葉をもりもり食べ、ひたすら次のステップに向けて成長を続けています。繭作りはもう少し先のようなのです。真相の解明に向けて、友人と私の胸は高鳴っています。

